

# 第8次芦屋すこやか長寿プラン 21 策定に向けた 市民ワークショップ実施結果報告

## 1. 実施概要

市民ワークショップは平成 29 年 7 月に全 3 回実施し、西山手，東山手，精道，潮見の地域ごとに、「認知症の方への支援」をテーマに検討いただきました。

- |         |   |
|---------|---|
| ○開催日    | : 平成 29 年 7 月 6 日 (木), 14 日 (金), 28 日 (金) (全 3 回)   |
| ○参加者    | : 【市民】<br>①中学校区福祉ネットワーク会議構成員<br>(民生委員・児童委員, 福祉推進委員, 自治会長)<br>②介護相談員<br>【支援団体等】<br>①認知症の人をささえる家族の会 あじさいの会<br>②施設 (グループホーム)<br>③認知症カフェ<br>④認知症地域支援推進員 |
| ○参加人数   | : 7 月 6 日 26 名、14 日 26 名、28 日 24 名  |
| ○地域区分   | : 西山手地区, 東山手地区, 精道地区, 潮見地区  |
| ○検討テーマ  | : 認知症の方への支援   |
| ○検討内容   | : 一人ひとりの身近な取り組みや地域での取り組み, 計画づくりに資するよう<br>な課題解決に重点をおいた検討を実施  |
| ○スケジュール | : 第 1 回 テーマ選定<br>第 2 回 理想と現状の検討<br>第 3 回 解決策 (取組) の整理   |

### (1) 実施目的

市民ワークショップの目的は以下の通り設定しました。

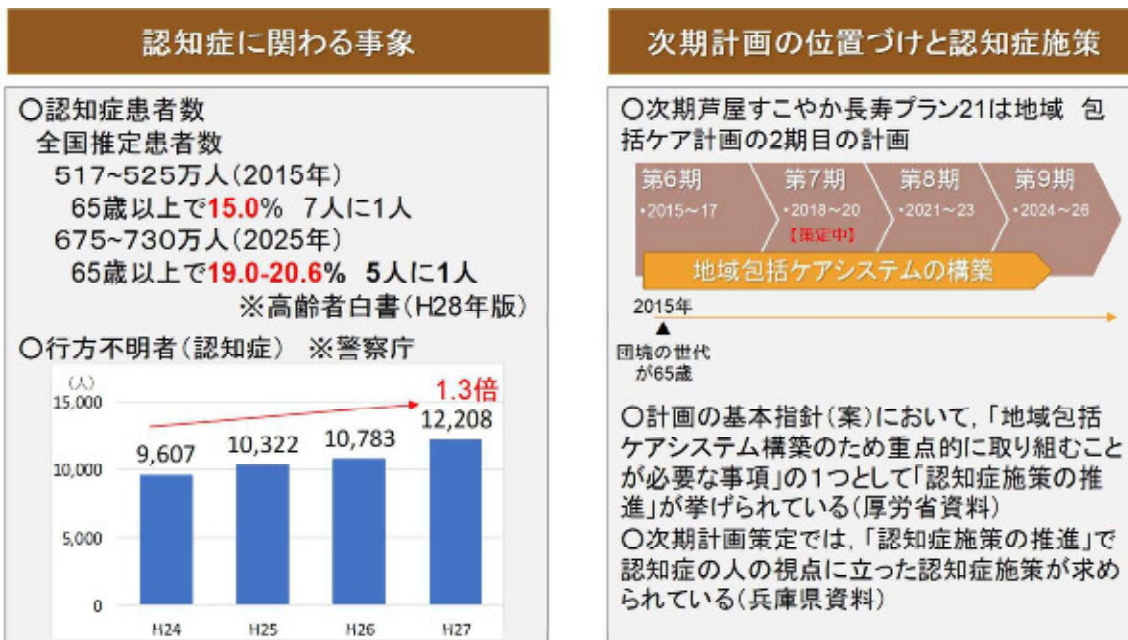
#### ■ワークショップの実施目的

- 地域包括ケアシステム構築に向けて、当事者、支援者等が日常において感じている課題や問題点を把握すること
- 高齢者を支える地域づくりにおける施策の方向性のための検討材料を得ること

## (2) 検討テーマの選定理由

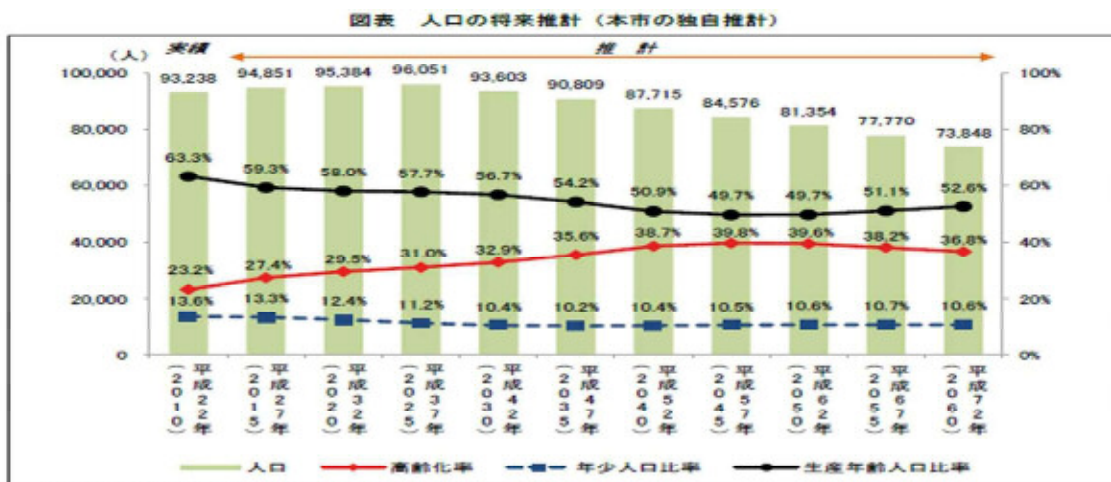
### 【選定理由①】(国・県の状況)

次期芦屋すこやか長寿プラン21は地域包括ケア計画の2期目の計画として位置づけられます。地域包括ケアシステムの実現に向けて「認知症施策の推進」が、国・県において、引き続き重点事項としてあがっています。



### 【選定理由②】(芦屋市の状況)

高齢社会の進展を背景に、全国と同様に、芦屋市においても認知症高齢者が増加しています。これまでも芦屋市では、現行計画において、認知症高齢者への支援体制を推進し、認知症サポーターの増加や認知症初期集中支援チームの整備などに取り組んできました。一方、認知症サポーターの活躍の場の提供など新たな課題もでてきました。



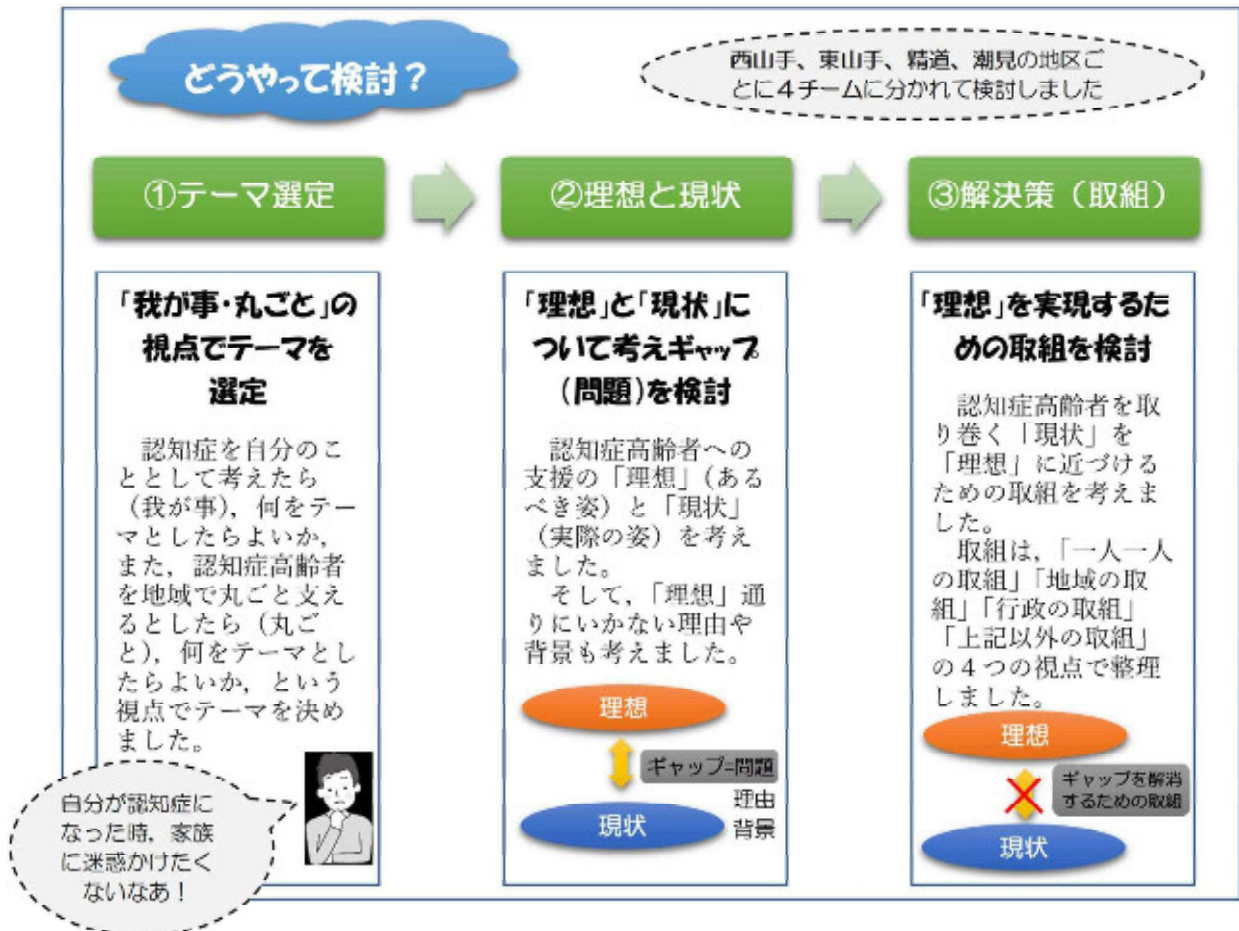
【参考】平成28年12月1日現在(住民基本台帳人口より)

- 人口96,318人(男 43,800人、女 52,518人)
- 世帯数44,354世帯 ■高齢者数26,644人(高齢化率27.66%)

## 2. 検討方法

「認知症の何を話し合うか」という検討テーマも各チームで選定し、理想と現状、取組を、3回（3日間）に分けて、検討しました。

検討テーマは、どのチームも多くの候補が話し合われましたが、チームごとに投票で3つに絞りました。



### 3. 実施結果

#### (1) 西山手地区

##### ① 検討テーマ

西山手地区では、次の3つにテーマを決めました。

- 認知症の方へのサービス
- 今まで通りの暮らしをしたい/認知症になっても自分らしく暮らしたい
- 地域の人に支えてほしい（災害時・緊急時は特に必要となる）

##### ② 理想と現状、及び解決策（取組）

西山手地区では、理想と現状について、検討テーマごとに以下の意見が検討されました。また、検討した理想を実現するための解決策（取組）について、以下の意見が検討されました。

- 認知症の方へのサービス

理想	現状
<ul style="list-style-type: none"> <li>● サービス等の情報が整理され、誰がみても簡単に理解することができる。</li> <li>● 認知症の人が利用できる地域の集いや気軽に立ち寄れる場をつくり支援する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 多くのサービスがあり書類も複雑であるため、制度を理解できない。また知らない人が多い。</li> <li>● 地域で認知症の人が1人でいける場所がどこかわからない。</li> </ul>

	解決策（取組）
一人ひとりの取組	<ul style="list-style-type: none"> <li>● サービスや相談窓口（高齢者生活支援センター）について知っている人が、知らない人に教えてあげる。</li> <li>● 見守り（訪問、電話かけ、食事）など、自分のできることから始める。</li> </ul>
地域の取組	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 認知症の人も含めて、誰でも集える場所を発見し、居場所をつくる。</li> <li>● 地域に認知症カフェを増やす。</li> </ul>
行政の取組	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 行政書類を簡素化し、行政サービスを分かりやすく紹介する。</li> <li>● 子育て・教育部門と連携して、就学前児童から高校生まで、施設訪問や施設に関する学習ができるようにする。</li> </ul>
上記以外の取組	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 町ごとの民生委員・児童委員、福祉推進委員の定期的な状況把握。</li> </ul>

○ 今まで通りの暮らしをしたい/認知症になっても自分らしく暮らしたい

理想	現状
<ul style="list-style-type: none"> <li>●自分の趣味や交友関係を保ちながら、暮らすことができる。</li> <li>●自由に外出ができ、どこに行っても自宅に戻ることができる、家族が外出したい時も近所の人が見守る環境がある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●認知症になると、会話がしにくくなり、交友関係の維持が難しい。</li> <li>●外出の回数も減り、一人で外出しても戻ることができない。</li> </ul>

	解決策(取組)
一人ひとりの取組	<ul style="list-style-type: none"> <li>●セルフケアとして定期的に受診する。</li> <li>●認知症を正しく理解する。</li> </ul>
地域の取組	<ul style="list-style-type: none"> <li>●認知症について偏見をなくすよう認知症サポーターを増やす。</li> <li>●認知症の人が散歩しやすいように一緒に歩いて、世話をする。</li> <li>●ゴミ出しなどで間違えることが多くなった人には、直接手を貸す。</li> </ul>
行政の取組	<ul style="list-style-type: none"> <li>●地域の店と市民との意見交換。</li> <li>●芦屋川カレッジ等において、認知症サポーター養成講座・介護予防リーダー養成講座を生涯教育として取り入れる。</li> <li>●NPOとの協働。</li> </ul>
上記以外の取組	<ul style="list-style-type: none"> <li>●地域の居場所づくりを団体や民間、NPOと協力してつくる。</li> </ul>

○ 地域の人に支えてほしい(災害時・緊急時は特に必要となる)

理想	現状
<ul style="list-style-type: none"> <li>●普段からの近所付き合いがあり、認知症であることや、家族に認知症の方がいることを周囲に伝えることができる。</li> <li>●そのような環境で、地域で認知症の人を支える。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●地域では認知症について正しい理解が浸透していないため、関わりを避ける傾向にあり、日常の些細なことを頼める人はいない。</li> <li>●認知症の方に何かあれば警察で対応しているのが現状であり、地域の人で支えられる体制になっていない。</li> </ul>

	解決策(取組)
一人ひとりの取組	<ul style="list-style-type: none"> <li>●日頃からの地域の人との関係を大切にする。</li> </ul>
地域の取組	<ul style="list-style-type: none"> <li>●地域で近隣の住民を知り、個人を支えるシステムをつくる。</li> </ul>
行政の取組	<ul style="list-style-type: none"> <li>●地域の広報を支援、協力する。</li> </ul>
上記以外の取組	<ul style="list-style-type: none"> <li>●地域で働く人が地域のことを知る。</li> </ul>

## (2) 東山手地区

### ① 検討テーマ

東山手地区では、次の3つにテーマを決めました。

- 相談したい
- サポート体制
- 地域の協力体制

### ② 理想と現状, 及び解決策(取組)

東山手地区では、理想と現状について、検討テーマごとに以下の意見が検討されました。また、検討した理想を実現するための解決策(取組)について、以下の意見が検討されました。

- 相談したい

理想	現状
<ul style="list-style-type: none"><li>● 相談場所が明らかで、身近な場所ですぐに、気軽に相談できる。</li><li>● 身近な相談場所から関係機関につながる体制ができています。</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>● 総合相談窓口として、高齢者生活支援センターがあり、社会福祉協議会にも相談窓口が設置されている。</li><li>● 身近に相談できる環境がなく、相談場所がわからない人が多い。(相談窓口の周知が不十分)</li></ul>

	解決策(取組)
一人ひとりの取組	<ul style="list-style-type: none"><li>● 近所の人と顔の見える関係をつくり、知識を深めて身近な人を助ける。</li></ul>
地域の取組	<ul style="list-style-type: none"><li>● 地域で施設訪問を企画し、積極的に見学し、施設を肌で感じ、身近な場所にしていく。</li></ul>
行政の取組	<ul style="list-style-type: none"><li>● 認知症専門窓口をつくる。(認知症 110 番)</li><li>● 相談窓口の情報発信をもっと工夫する。</li><li>● 施設、事業所における相談窓口の設置を推進する。</li></ul>
上記以外の取組	<ul style="list-style-type: none"><li>● 相談窓口の職員が日頃から地域イベントに参加し、顔が見える関係をつくる。</li></ul>

○ サポート体制

理想	現状
<ul style="list-style-type: none"> <li>●情報交換や徘徊時に対応するネットワークができています。</li> <li>●地域全体で認知症の理解ができています。</li> <li>●地域サポーターが育成され、地域全体でサポート体制を構築する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●傾聴ボランティア（シルバー人材センター）や関連機関による福祉学習は実施されているが、インフォーマルサービスによるサポート体制が構築されておらず、認知症の人へのサポートができていない。</li> <li>●介護保険サービスしかない。</li> </ul>

	解決策(取組)
一人ひとりの取組	<ul style="list-style-type: none"> <li>●認知症のことをもっと学習し、認知症を正しく理解して偏見を持たずに接する。</li> </ul>
地域の取組	<ul style="list-style-type: none"> <li>●自治会に高齢者対応窓口をつくり、相談体制をつくる。</li> <li>●学びたいことが学べる場をみんな（住民、行政、施設）でつくる。</li> <li>●身近に集まれる場所をつくる。</li> </ul>
行政の取組	<ul style="list-style-type: none"> <li>●地域ニーズを把握し、身近なテーマでセミナーを開催する。</li> <li>●市全体の施設情報を周知する。</li> </ul>
上記以外の取組	<ul style="list-style-type: none"> <li>●掲示板や情報誌で、関係機関がお互いにPRし合う。</li> </ul>

○ 地域の協力体制

理想	現状
<ul style="list-style-type: none"> <li>●自治会等の地域で認知症の現状を共有し、地域で顔見知りになる。</li> <li>●地域と施設の協力体制・関係を構築する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●自治会、老人会、地区福祉委員会等に見守り体制があるが、協力体制に地域の差がある。</li> <li>●地域と施設の関係づくりが不十分。</li> <li>●地域の協力体制を誰が進めるのかわからない。</li> </ul>

	解決策(取組)
一人ひとりの取組	<ul style="list-style-type: none"> <li>●見守りボランティアに参加するなど、できることからしてみる。</li> </ul>
地域の取組	<ul style="list-style-type: none"> <li>●連絡網を整備し、見守りネットワークを構築する。</li> </ul>
行政の取組	<ul style="list-style-type: none"> <li>●勉強できる場や集いの場の整備。</li> <li>●定期的な認知症徘徊模擬訓練の実施。</li> </ul>
上記以外の取組	<ul style="list-style-type: none"> <li>●掲示板、地域紙等で地域に民生委員・児童委員の存在を周知する。</li> </ul>

### (3) 精道地区

#### ① 検討テーマ

精道チームは次の3つにテーマを決めました。

- 見守り・声かけ
- 支援のネットワーク
- 認知症の理解

#### ② 理想と現状, 及び解決策(取組)

精道地区では、理想と現状について、検討テーマごとに以下の意見が検討されました。また、検討した理想を実現するための解決策(取組)について、以下の意見が検討されました。

- 見守り・声かけ

理想	現状
健康長寿の取組の芦屋スタイルが確立し、「やさしい声かけ」と「さりげない見守り」で、誰でもありのままの姿で生活できる。 「やさしい声かけ」 <ul style="list-style-type: none"><li>・認知症になっても、今までどおり、近所の人を訪ねてきてくれる</li><li>・話しかけられやすい地域をつくる</li></ul> 「さりげない見守り」 <ul style="list-style-type: none"><li>・行きたい所に気がねなく行ける</li><li>・一緒に外出してくれる人がいる</li></ul>	認知症・オレンジカフェといった居場所があったり、高齢者生活者支援センターへつなぐことはできているが、声のかけ方がわからず、見てみぬふりをしてしまう。

	解決策(取組)
一人ひとりの取組	<ul style="list-style-type: none"><li>●あいさつ運動をする。</li><li>●普段からあいさつ、声かけをして顔見知りを増やしておく。</li></ul>
地域の取組	<ul style="list-style-type: none"><li>●認知症に優しい地域であることを同じ日にいろいろな場所で声をあげる。</li><li>●元気なうちから自分のサポーターをつくる。(友達10人)</li><li>●自治会でオレンジリングを身に付けて歩こうとアピールする。</li></ul>
行政の取組	<ul style="list-style-type: none"><li>●相談窓口で認知症チェックをすることをあたりまえにする。</li><li>●ケーブルテレビの芦屋市広報番組を活用して、周知・広報する。</li></ul>
上記以外の取組	<ul style="list-style-type: none"><li>●認知症サポーターやひとり一役ワーカー等の活動先の拡充。</li></ul>



○ 支援のネットワーク

理想	現状
<ul style="list-style-type: none"> <li>● 認知症になってもならなくてもご近所づきあいが活発なまち。</li> <li>● 認知症になっても安心できる居場所がある。</li> <li>● 必要な情報がすぐにわかり、共有されている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 誰でも気軽に行ける場所がまだまだ少ない。</li> <li>● 困った時の相談先、問い合わせ先がわからず、どこに連絡すればよいかわからない。</li> </ul>

	解決策(取組)
一人ひとりの取組	<ul style="list-style-type: none"> <li>● オレンジカフェに参加して、来られている方の顔と名前を覚える努力をする。</li> </ul>
地域の取組	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 居場所ネットワークをつくる。</li> <li>● 自治会、老人会などと問題を共有する。</li> <li>● 顔を合わせる機会を増やして、情報共有する。</li> </ul>
行政の取組	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 居場所をつくる。</li> <li>● 徘徊者保護対応のシステムづくり。</li> <li>● 認知症カフェへの支援ネットワーク。</li> <li>● 認知症サポート医を増やす。</li> <li>● 認知症初期集中支援チームの取組を周知する。</li> </ul>

○ 認知症の理解

理想	現状
<ul style="list-style-type: none"> <li>● 小さい時から認知症について学習し、認知症の人を特別扱いせず、認知症の人が安心して外出できる地域をつくる。</li> <li>● 地域に認知症に対応できる医療機関がある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 認知症の人と接する機会が少なく、認知症に対する理解が不十分。</li> <li>● 家族の理解が不十分で、診断されても「あまり知られたくない」と思う家族が多い。</li> <li>● 専門医療機関が不足している。</li> </ul>

	解決策(取組)
一人ひとりの取組	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 認知症サポーター講座、講演会に参加して勉強し、認知症について学習し、適切な関わり方を知る。</li> </ul>
地域の取組	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 活発に楽しく参加できる機会を自治会で増やす。</li> <li>● さまざまな催しの中に、認知症を考える時間を作る。</li> </ul>
行政の取組	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 子どもの時から認知症になじめるように多世代交流の場をつくる。</li> <li>● 認知症に関する情報の集約、一元化。</li> <li>● 認知症の人が集える場所を提供する。</li> </ul>
上記以外の取組	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 世代に関わらず、高齢者施設へ行ってみる。</li> <li>● 認知症を理解することを次世代に伝える。</li> </ul>

#### (4) 潮見地区

##### ① 検討テーマ

潮見チームは次の3つにテーマを決めました。

- 正しい理解
- 居場所
- 地域の見守り

##### ② 理想と現状, 及び解決策(取組)

潮見地区では、理想と現状について、検討テーマごとに以下の意見が検討されました。また、検討した理想を実現するための解決策(取組)について、以下の意見が検討されました。

- 正しい理解

理想	現状
小さな頃から継続して学ぶことができ、みんなが認知症の人に対応ができ、認知症であるか分からないかが問題とならないまち。	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 認知症サポーター養成講座が知られていない。認知症サポーター養成講座も同じ人が受講している。</li> <li>● 高齢者施設ができそうになると、反対運動がおこるなど、認知症のイメージがよくない。</li> <li>● 認知症の方との接し方をわかっている人が少ない。</li> </ul>

	解決策(取組)
一人ひとりの取組	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 認知症サポーター養成講座への参加の声を一人ひとりで行う。</li> <li>● オレンジリングを身につける。まずは大人からはじめる。</li> </ul>
地域の取組	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 各自治会で年に1回は認知症サポーター養成講座を企画、開催する。</li> <li>● オレンジリング週間を設ける。</li> </ul>
行政の取組	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 認知症の方のケースを地域ケア会議で検討する。</li> <li>● オレンジリングのかわりに、オシャレで可愛いものにし、身につけやすいものにする。</li> <li>● 小学生、中学生や高校生も認知症サポーター養成講座を受ける等、学校の授業で「認知症」教育をする。</li> </ul>
上記以外の取組	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 市内の掲示板を活用して認知症サポーター養成講座を知らせる。</li> <li>● 認知症支援に関する活動をしたら、ポイントが加算され特典が付くような仕組みを作る。</li> <li>● 一般のキャラバンメイトの方と一緒に認知症サポーター養成講座のプログラムを作る。</li> </ul>

○ 居場所

理想	現状
<p>いつでもどこでもだれでも集まれるオシャレな場所があり、社会参加できる場が確保されている。</p> <p>「オシャレな場所」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・毎日地域の方と接する機会、場所の確保</li> <li>・お金がかからない場所で誰でも行ける場所が町に1つ以上</li> <li>・何時間居ても追い出されない場所</li> <li>・夜も集まれる酒場</li> </ul> <p>「社会参加ができる」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・格安な施設（家の家賃くらいで入れる施設）</li> <li>・ボランティアや仕事等、社会参加の場所</li> <li>・認知症になっても自分の役割がある</li> </ul>	<p>居場所を作る資金がなく、今ある場所の情報が周知されていない。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・サロンはあっても回数や場所が限られている</li> <li>・カフェを作ろうにもお金がないし、ボランティアもいない</li> <li>・サロンはあっても認知症の人は1人で行けない</li> </ul>

	解決策(取組)
一人ひとりの取組	<ul style="list-style-type: none"> <li>●お茶会に一緒に行こうと声かけする。</li> <li>●オレンジリングを自宅につけてかけ込めるようにする。</li> </ul>
地域の取組	<ul style="list-style-type: none"> <li>●自治会、管理組合などで認知症に限らず集える場所をつくっていく。</li> <li>●居場所を作るために講座を行う。</li> <li>●認知症の人をかかえる家族が相談出来る場所を設置。</li> </ul>
行政の取組	<ul style="list-style-type: none"> <li>●認知症カフェ等の集える場所の情報を発信する。</li> <li>●病院に認知症相談コーナーをつくる。</li> <li>●トライやる・ウィーク等で若者に声かけする。</li> </ul>
上記以外の取組	<ul style="list-style-type: none"> <li>●コープ等の身近な店舗に出張相談を設置。</li> <li>●地区が違ってても相談を受けてくれる場所の確保。</li> <li>●社会福祉協議会とリードあしやとのコラボレーション。</li> </ul>

○ 地域の見守り

理想	現状
<p>地域の全員が顔見知りで、気軽に声かけできる。</p> <p>(効果)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・好きに買物ができる</li> <li>・行方不明になってもすぐに発見できる</li> <li>・無料の24時間見守りサービスが構築される</li> <li>・多少迷惑がかかっても許される</li> <li>・地域で自発的に活動が起こる</li> <li>・自分に自覚がなくても、周りからサポートしてもらえる</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●高齢者が身近にいないため、高齢者のイメージそのものがない。また、顔見知りの関係を作るには、時間がかかる。</li> <li>●近所の人顔を知らない。</li> <li>●地域での活動に若い世代の参加が少ない。</li> </ul>

	解決策(取組)
一人ひとりの取組	<ul style="list-style-type: none"> <li>●隣近所にあいさつする。</li> <li>●地域行事に誘いの声をかける。</li> <li>●顔を知らなくてもあいさつする。</li> </ul>
地域の取組	<ul style="list-style-type: none"> <li>●気軽にあいさつをする週間をつくる。</li> <li>●「気になる人がいる」という情報を共有できる場が必要。</li> <li>●店舗や人と対面する仕事をしている団体に認知症の理解を深めてもらう。</li> <li>●施設等の人が集まる場所において民間の有名飲食店とコラボレーションする。</li> </ul>